

2025年4月5日

岡部昌平

第368回山口西田読書会のプロトコル（2025年3月15日開催／同4月5日配付）

【テキスト】

第四巻「左右田博士に答ふ」五の第6段落319ページ1行目から、同段落の終わり（319ページ14行目）までを読了。

【キーセンテンス】

319ページ2行目

無論直覚的なるものが、その儘にて判断の中に入り来ると云ふのではない、場所が限定せられるかぎり、之（限定せられた場所）に映ずるのである

同13-14行目

此の場所に於いてあるものは、全く知識の意味を失って、意識一般の対象界に於いては、唯表現として見られるまでである

【問い】

319ページ2行目の「映ずる」は13-14行目の「表現として見られる」ことと同じか

直覚的なるものが「映ずる」のと、於いてあるものが意識一般の対象界に於いて唯表現として見られることとは、同じことを反対の側から述べていると読むのは誤りか。超越とはある境界となるところから劇的に変わるのか、それとも混ざり合うように変化していくものか。